

私は2010年3月末に、41年間勤務した会社を定年退職した。その間に産業カウンセラーとキャリアコンサルタントの資格を取得していた。在職中は人事部でキャリアカウンセリング、キャリア開発の仕事をしており、「キャリア」についてさらに研究をするため、56歳で母校の大学院に入学、休学期間も含め

ナビゲーター

修士・博士課程に7年間に在籍した。また、私の勤めていた会社は製造業であり、経営について幅広い知識を得るため中小企業診断士の資格に挑み、90年代に苦難の末に取得していた。

中小企業診断士の有資格者を中心とした「日本生産管理学会」という学会があり、私の会社の後輩に勧められて2000年頃に入

産業カウンセラーの現場から

相談者の思いに共感して伴走する

回 20

自らテキスト作成に挑む

会した。当時の学会の会長の澤田善次郎氏は、椋山学園大学現代マネジメント学部の教授で、ご自身のゼミ生を持っておられた。2010年当時は就職氷河期で、澤田先生から私に、「ゼミ生の就職が心配なので、何か就職に役立つ講義をしてもらえないか」とのご依頼があった。

大学の非常勤講師は、一コマ90分を6カ月内に15回実施、テスト等で学生を評価し単位を認定するのであるが、授業で使用する適当な教材がなかった。いや仮にあったとしても、他人の作成したテキストを使用するよりも自分で作成する方がよいと思い、診断士仲間・

地元女子大で非常勤講師10年

産業カウンセラー仲間を声をかけ、私を含め合計4人で講義用のテキストの作成にかかった。

テキスト作成にあたっては、大学生の就職活動だけではなく、就職後も使用できるようなテキストであることを目標におき、タイトルを「大学生のためのキャリアアップ―大学と会社をつなぐものは何か―」とし、就職活動もさることながら、有意義な学生生活を過ごすための情報を満載した。私自身は当時、就職活動支援という「キャリアシートの書き方」や「面接での応答の仕方」というハウツーに偏っていることに疑問を感じており、

就職活動は自分を「お化粧をする」のではなく自分自身を「中から磨く」べきだという信念があった。

およそ1年かけてテキストを作成し、2011年度から当面は澤田先生のゼミ生だけのこじんまりした授業を開始した。講師は、テキストを作成したうちの3人で行ったが、そのうちの1人が女性で、名古屋では今や数少ない女子大の講義としては性比のバランスがとれていた。講義はその後毎年続き、受講生も学部全体に広がり、多い年は150人を超えるマンモス授業になった。この講義は2020年度まで続いたが、テキストの改定は社会の変化などに応じ4回ほどに及んでいる。

【日本産業カウンセラー協会中部支部会員 産業カウンセラー 社会保険労務士 杉本 和夫】

(火曜日に掲載)

